

第5回公開講演会

社会福祉法人 エル・ファロ自由空間
〒974-8261 福島県いわき市植田町中央三丁目7-6

助成事業の概要

当法人では、「発達障がい」を課題の1つとして取り組み、日々、利用者様の個性に合わせた「空間」・「居場所」作りを心掛け、業務を行ってきた。法人創立10周年以来、毎年、発達障がい者（児）支援をテーマとした公開講演会を実施しており、今回で5回目となる。本講演会は、参加者全員が発達障がい者（児）の支援に必要な知識を身に付けること、そして、地域の方々と共に学び、繋がりをもち、発達障がいへの理解を深めていただくことを目的としている。

【事業概要】

『社会福祉法人 エル・ファロ 第五回 発達障がい者の支援を考える公開講演会』

テーマ：発達障がいに関する内容

講演タイトル：「障がいを持つ方の理解と関わりを考える」

講師：いわき明星大学 教養学部地域教養学科
大島典子 常勤准教授

日時：平成28年2月27日（土）
午後2時～午後4時（質疑応答も含め2時間程度）

参加費：無料

参加対象者：当法人職員、保護者、特別支援学校関係者、福祉施設関係者 等

場所：いわきゆったり館 ボランティア研修室（大）

事業の成果

当法人では、現在、高校卒業後すぐに就職した者や福祉の現場に携わる事が未経験の者、障がいを持つ方々と関わる事が初めての者等、経験の浅い支援員も勤務しているため、今回の講演会では、いわき明星大学・教養学部地域教養学科の常勤准教授である大島典子氏を講師にお迎えし、支援を行っていく上で基本となる『発達障がいとは何なのか？』・『障がいの特性や関わり方』といった部分について、「障がいを持つ方の理解と関わりを考える」というテーマで講演を行って頂いた。

講演では、視覚的ツール（スクリーン上に映し出された画像・場面が変化するパワーポイント）等を使用し、発達障がいを持つ方々の物の見え方や感じ方、捉え方等を具体的に紹介して頂いたことで、当事者へのイメージが湧き、共感的理解を深める事ができた。また、発達障がいを持つ方々への支援方法の一つにソーシャルスキルトレーニングという社交術の訓練法があるが、実際には、本当にトレーニングが必要なのは当事者ではなく支援する側であるということ、そして、発達障がいを正しく理解し、当事者との適切な接し方を学べば問題の多くは解決するといったお話から、支援における重要なポイントを学ぶことができた。

講演を聴講した方々からは、内容がとても分かりやすかったという意見や、発達障がいを持つ方の視覚や感覚を実際に経験する事で、その人の気持ちに寄り添った見方ができたという意見等が多く寄せられた。また、今後も更に発達障がいにつ

いて学んでいきたいといった声も聞かれていた。今回の講演は、経験の浅い支援者のみではなく、これまで発達障がい者（児）の支援に携わってきた者にとっても、支援のあり方を見つめ直し、更に理解を深めていくための良い機会となった。

■ 成果の広報、公表

広報・公表については、当事業所が不定期に発行している広報紙「あれこれそれ」の最新号に「第 5 回発達障がい者の支援を考える公開講演会」の報告記事を掲載し、利用者・保護者宛に配布する（約 40 部程度・平成 28 年 3 月末～4 月上旬に発行予定）。また、社会福祉法人エル・ファロのホームページ <http://www.el-faro.or.jp> の「自由空間スタッフ日記」のコーナーにも同広報誌を掲載し、本講演会について広く知って頂く機会としたい。同時に、事業所内にも掲示し、来訪者などにも見て頂けるようにする。

講演会終了後に行ったアンケート結果については、当事業所で取りまとめ、いつでも職員が見られるよう保管し、今後の講演会の参考としていく。

■ 今後の展開

社会福祉法人エル・ファロでは、支援員や保護者、学校関係者や一般の方々を対象に、これまで 5 回の公開講演会を開催し、発達障がいに対する理解を深めてきた。しかし、まだまだ発達障がいについての理解や支援方法などを学ぶ機会というものは少なく、現状を把握する事が難しい所にあると言える。そのため、来年度以降も本講演会を継続していくことで、発達障がいについて理解を深める機会を確保していきたいと考えている。

聴講者からのアンケート結果などを踏まえ、発達障がい者（児）への関わり方の具体例、失敗例、環境作りの方法、ルール化、観察方法、どう伝え

れば相手が分かりやすく理解できるのか等といった点を含め、理論だけではなく実践的な部分も取り入れた講演会にしていきたい。

また、アンケートの中には、いわき市における障がい者（児）の現状と課題は何なのか、現状からどう対応していくのかといった内容の講演を聞きたいとの声も寄せられていたため、今後は、さらに保護者や地域の方々も含め、発達障がい者（児）の支援に関わる全ての人達と共通した理解を得られるような機会としていきたいと考えている。